

る生産者は多いと言われています。「昨年の肥大不足で種球が小さい」「肥大を良くするため定植密度を荒くしたのでは」などと説明されていましたが、販売環境への反応にも感じます。輸出会社の中には、通常なら90%は売っている時期だが、今年は80%程度、9月の生育状況が良ければ収穫までに追加オファーが出てくる可能性があるという意見もあります。

一方、見込の修正や販売は、球根生産者次第で、品種・圃場等により個別の判断となるため、いつ(場合によっては収穫時)、何を、誰にオファーするのかはわかりません。

② オランダ作付面積統計

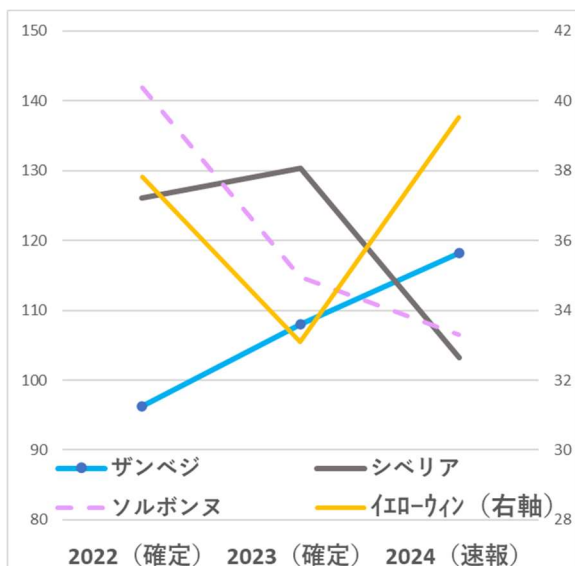
7月中旬に発表された、2024年オランダ産作付面積統計の【系統別】【品種別】は弊社ホームページに掲載しておりますのでご参照下さい。

交配系統別の販売球合計面積は下表の通り、OTがほぼ同じ面積で、LA・オリエンタルは減少傾向が続きます。

Ha	2022 (確定)	2023 (確定)	2024 (速報)	前年比
オリエンタル	926	874	805	92%
OT	933	953	954	100%
LA	1151	948	855	90%

販売球面積100Ha級のメジャー品種と、黄色の例としてイエローウィンを見ますと、それぞれ変化の特徴が見て取れます。

Ha	2022 (確定)	2023 (確定)	2024 (速報)	前年比
ザンベジ	96.23	108.00	118.20	109%
シベリア	126.04	130.39	103.21	79%
ソルボンヌ	141.87	114.83	106.47	93%
イエローウィン (右軸)	37.83	33.09	39.54	119%



ザンベジ オランダの切花生産者需要(複数年契約)も強く、年々増加。

イエローウィン 世界需要減少?もブイ字回復…

シベリア 昨年、減少予想に反し面積が増加しましたが、今年は減少しました。一方、リン片+2年リン片の面積は、昨年26.29ha→今年29.06haと1割ほど増加しており、球根相場も高騰しているため、来年以降、生産量の回復が予想されます。